



市史へんさん

第 282 号

令和 4 年 9 月 1 日
小松市史編纂担当
へんさんだより

先月 4 日に北陸地方に襲った大雨で、当市を流れる梯川は、観測史上最高の水位 5.90m を記録し、川は氾濫、堤防も決壊し、町中は浸水して甚大な被害を受けました。現在も、厳しい炎天下の中、復旧作業が続きます。県内外のボランティアの皆様のご支援を受けながら作業が進められています。災害地区の方々のご苦勞を思うと、一日でも早く日常生活が戻ることを願わずにはられません。

9 月に入ると、8 日に、朝夕に露が降り始める「白露(はくろ)」、10 日に「中秋の名月」が訪れ、秋の深まりが一段と感じられます。この秋の気配に触れながら、夏にたまった暑さの疲れを、心身ともに癒しましょう!!

水害史をふり返る 昭和～平成期



8 月 4 日の線状降水帯による大雨は、埴田水位観測所で最高水位だったことを前述した。これまで、へんさんだより 279～281 号で江戸期の災害に触れ、当地域に予想外に災害が多いことと、その対応も敏速であったことを紹介した。また、一昨年度発刊の『新修 小松市史 近現代編』でも大きな災害について、その史料を掲載した。今回の水害被害を受け、昭和の大水害と言われる「手取川洪水」以降、当市が受けた大きな水害を、国土交通省の資料を参考にまとめてみた。こうした大水害を受け、その対策として梯川の河川改修工事を実施したり、避難所の改善を徹底したり、日々、防災に努めている姿も報告書から見て取れた。

年	月日	発生原因	被害状況
昭和 34 年	1959 年 8 月 14 日	台風 7 号	浸水家屋 1,934 戸。橋梁流出 9 橋。本川 1 箇所、支川 4 箇所堤防決壊。
昭和 43 年	1968 年 8 月 28 日	秋雨前線	浸水家屋 1,301 戸。支川 3 箇所堤防決壊。自衛隊災害派遣要請。
平成 10 年	1998 年 9 月 22 日	台風 7 号	水田冠水で農作物の被害甚大。河岸決壊・用水路崩壊等 6 箇所。
平成 16 年	2004 年 10 月 20 日	台風 23 号	2,272 世帯避難勧告。護岸破損等 4 箇所。最高水位 4.69m。
平成 18 年	2006 年 7 月 17 日	梅雨前線	5 日間の豪雨で月平均の 2 倍の 400mm を観測。最高水位 4.91m。
平成 25 年	2013 年 7 月 29 日	梅雨前線	観測史上最高水位 5.23m を記録。1,494 世帯避難勧告。堤防決壊 4 箇所。

☆ 昭和 43 年 8 月 28 日洪水…梯川氾濫 (写真右)

九州南端に上陸した台風 10 号は、秋雨前線を刺激し、本州に大雨をもたらした。この洪水で、支川の八丁川、鍋谷川において堤防が決壊し(右写真:2つに折れた波佐谷大橋)、長田町の民家 100 戸以上が床上浸水した。また北陸本線の一部で不通となった。

この状況に、藤井小松市長は中西県知事宛に自衛隊災害派遣を要請。55 人前後の人員が復旧作業に尽力した。(写真右下:鍋谷川での作業)

☆ 平成 25 年 7 月 29 日洪水…埴田観測所史上最高水位記録 (写真下)

梅雨前線に暖かく湿った空気が流れ込み、大気が不安定となって、大雨をもたらした。降水量が、統計開始以来最大の 199.5mm を観測、1 時間の最大雨量は 46.5mm、水位も 5.23m と過去最高に達した。1,494 世帯に避難勧告、自衛隊に災害派遣を要請、約 270 名が復旧に務めた。



梯川本流の水害を紹介したが、梯川水系で南部を流れる粟津川、日用川、前川でも水害の記録が残る。粟津川では昭和 56 年の被害状況を『近現代編』で紹介した。前川での目立った被害は、同 45 年の河川決壊で、用水が溢れ、民家・田畑に被害が及んだ。日用川は、同 51 年に河川 9 箇所が決壊、家屋の浸水や田畑が冠水した。

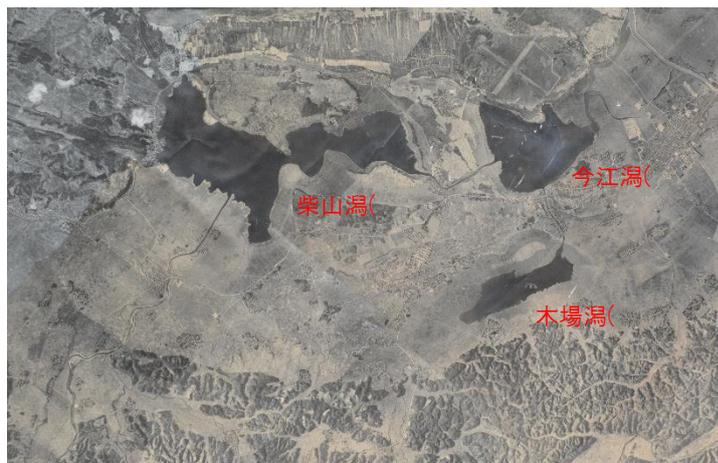
『新修 小松市史 資料編 18 近現代』第 14 章の見どころ

当市の特色ある諸相の 3 つ目として、「加賀三湖の干拓」を第 14 章で紹介する。

現在は、木場潟と柴山潟の一部が残るが、かつては今江潟を加え、「加賀三湖(写真)」と呼ばれた。潟は、柴山潟には串川、木場潟には前川が通じ、今江潟と繋がって梯川下流で合流し、日本海に注いでいたことから水運の要でもあった。しかし、一方で大雨が降ると、梯川の水が逆流し、今江潟・木場潟周辺の田地が冠水、作物の被害は甚大であった。そのため被害農民は三湖の排水・干拓工事を切望していた。

折しも、終戦後、経済安定と食糧増産が叫ばれ、「国営干拓事業」が始められたことから、水害解消も図る一石二鳥の方策と捉え、坂田英一農林省局長の働き掛けによって、三湖干拓は国営事業として始動することとなった。こうして今江潟全面、柴山潟は 60% を干拓、木場潟は用水源等の調整池として工事が進み、昭和 41 年(1966)5 月に干陸式を挙行、その後、圃場整備、河川改修工事を進め、同 44 年 9 月に事業は完了した。

この干拓事業の経過を原史料から紹介した。始動期の史料として、期成同盟会結成から事業促進の陳情書、経過を示す史料として、営農計画や入植・増反配分県案を掲載した。入植等の請願が続く中、県は「入植増反のしおり」を同 43 年に頒布し、所得水準の高い自立農業経営者を募った。その選定結果も載せる。その後、酪農・ハウス経営を取り入れた営農を開始したが、国の減反政策のために米生産は苦境に立たされることになる。



『新修 小松市史 資料編 18 近現代』DVD 付

定 価：5,100 円

販売所：市史編纂担当・うつのみや・明文堂書店



< 9 月の活動予定 >

- ・ 9 月 16～18 日 尾小屋鉱山関係資料調査
- ・ 9 月 18 日(日) 通史(近現代)部会

< 8 月の活動状況 >

- ・ 8 月 1・2 日 梯川改修工事関係資料調査(県庁)
- ・ 8 月 5・12 日 北海道移民関係資料調査
- ・ 8 月 5・17 日 石材関係資料調査
- ・ 8 月 8～10 日 北海道移民関係資料調査(帯広方面)
- ・ 8 月 18 日(木) 梯川氾濫関係資料調査
- ・ 8 月 19・24・27 日 中等教育関係資料調査
- ・ 8 月 19 日(金) 曳山上演聞き取り調査
- ・ 8 月 27 日(土) 合併関係資料調査

< 9 月のカレンダー > 開室時間 10:00～17:00(火～金)/9:00～17:00(土)

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	10/1

* は市史編纂担当の事務局は閉室しています。

小松市史編纂担当(小松市立図書館 2 階)

- ・ 住所 〒923-0903 小松市丸の内公園町 19 芦城公園内
- ・ TEL 0761(24)5315 ・ FAX 0761(22)9763
- ・ E-mail hensansitu@city.komatsu.lg.jp
- ・ URL <https://www.city.komatsu.lg.jp/soshiki/toshokan/shishihensan/index.html>

